



2021年6月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2021年5月17日

上場会社名 株式会社平山ホールディングス
 コード番号 7781 URL <http://www.hirayamastaff.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長

上場取引所 東

(氏名) 平山 善一

TEL 03-5769-4680

四半期報告書提出予定日 2021年5月17日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年6月期第3四半期の連結業績(2020年7月1日～2021年3月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年6月期第3四半期	16,697	△4.4	367	△3.4	455	8.3	305	109.4
2020年6月期第3四半期	17,472	14.3	380	188.2	420	153.7	145	△53.7

(注) 包括利益 2021年6月期第3四半期 294百万円 (106.5%) 2020年6月期第3四半期 142百万円 (△54.7%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年6月期第3四半期	89.22	82.47
2020年6月期第3四半期	42.30	39.00

(注) 2020年6月期末において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、2020年6月期第3四半期に係る各数値については、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2021年6月期第3四半期	7,782	3,079	39.6	898.83
2020年6月期	7,372	2,887	38.9	840.47

(参考) 自己資本 2021年6月期第3四半期 3,078百万円 2020年6月期 2,870百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年6月期	—	—	—	30.00	30.00
2021年6月期	—	—	—	—	—
2021年6月期(予想)	—	—	—	30.00	30.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2021年6月期の連結業績予想(2020年7月1日～2021年6月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	23,300	1.4	400	5.1	400	0.8	300	2.0	87.83

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2021年6月期3Q	3,608,400 株	2020年6月期	3,599,600 株
② 期末自己株式数	2021年6月期3Q	183,845 株	2020年6月期	183,811 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2021年6月期3Q	3,421,973 株	2020年6月期3Q	3,447,064 株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予測の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、2021年3月31日発表の日銀短観にみられるとおり景況感が「良い」と答えた企業の割合から「悪い」と答えた割合を引いた業況判断指数(DI)は大企業製造業でプラス5と前回の2020年12月調査から15ポイント上昇しました。大企業製造業は新型コロナウイルス感染拡大の影響で2020年6月にリーマン・ショック後の水準と同じマイナス34まで落ち込んでいましたが、その後は改善傾向が続き、今回、新型コロナウイルス感染拡大以前の2019年9月の水準にまで回復しました。米中など海外経済の持ち直しで輸出や生産活動が拡大し、3四半期連続で改善しました。一方、大企業非製造業はマイナス1で4ポイント上がったものの改善幅は小さく、新型コロナウイルス感染拡大からの景気回復は二極化の様相が強まっております。

一方、2021年2月の失業率も2.9%と前月から横ばいで推移し、有効求人倍率は1.09倍と前月から0.01ポイント低下しております。

海外につきましては、主力のタイにおいて、製造業生産指数は2020年4～6月期に前年同月比マイナス20.4%を底に、10～12月期には同マイナス1.6%まで回復しております。

このような環境下、平山グループは、自動車関連分野を中心に顧客の生産が回復し、受注を売上実績に繋いだこと、またオフィス機器関連分野、小売・サービス分野が低調であったものの、医療機器分野および食品製造分野が底堅く推移したこと、海外生産減が底を打ったことから、概ね計画どおりの売上高となりました。利益面では、請負職場での現場改善および受注単価の高い案件を獲得したこと、販売費及び一般管理費についてDX化やRPAを活用するなど効率的に使用したことから計画を上回った利益を確保しました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、2020年7～9月期が前期に比べ顧客生産が回復途上であったことから、売上高16,697,463千円(前年同四半期比4.4%減)、営業利益367,644千円(前年同四半期比3.4%減)、経常利益は助成金収入65,429千円が営業外収益として発生したことから455,689千円(前年同四半期比8.3%増)となりました。なお、親会社株主に帰属する四半期純利益(法人税等控除後)は特別利益として消費税等簡易課税差額収入が44,221千円、債務免除益が36,600千円発生したこと、法人税等を228,002千円計上したことから305,302千円(前年同四半期比109.4%増)となりました。

セグメント別の業績の概況は、次のとおりです。

① インソーシング・派遣事業

インソーシング・派遣事業につきましては、小売・サービス業種の受注が低調であるなか、機械、物流の業種を中心に、受注は堅調に推移しました。医療機器、食品の業種の受注は、底堅く推移いたしました。また、利益面では、現場改善を継続して行い収益改善に努めるとともに、受注の回復傾向を見込み、次の成長に備え、雇用に維持しつつ、人材採用および教育費用を効率的に使用したこと増益を確保しました。

採用面では、新卒、中途採用数は、ともに前年同期を上回り、順調に採用することができました。

この結果、売上高は13,876,600千円(前年同四半期比1.3%減)、セグメント利益は1,168,447千円(前年同四半期比12.1%増)となりました。

② 技術者派遣事業

技術者派遣事業につきましては、米中貿易摩擦や緊急事態宣言の発出など新型コロナウイルス感染拡大が収めていないことから、景気先行きへの警戒感が継続しており、技術者増員については慎重な対応をとる顧客企業が増加傾向にあります。IT関連技術者の需要は堅調に推移しておりますが、主要顧客である自動車等の輸送用機器産業における外部人材の需要減少が散見されております。

このような環境の下、平山グループでは、前期に引き続きグループシナジーを活かしつつ教育による付加価値の提供により既存取引下にある技術社員については、大半が契約更新を果たし取引継続になっております。

一方、人材採用面では、前期に入国規制により遅延した海外提携大学人材の日本国内への配置は、入国制限が断続的に解除されてはいるものの、一部の配置に留まっております。また、国内では、経験値の低い人材、外国籍人材の応募が増加傾向にあるため、一昨年より未経験者育成プログラム及び平山グループ内企業の非技術系人材の技術者転換プログラムに取り組み、技術者を育成しております。

今後も、高付加価値人材を主体に新規採用の継続的な強化を図りつつ、平山グループにおいて注力しているキャリアカウンセラーによるメンタルヘルスケアを中心とした健康維持の取組みを継続することで離職を抑制し、成長の源泉である技術者確保に努めてまいります。

この結果、売上高は1,094,269千円(前年同四半期比3.3%減)、一時的に教育コストがかさんだことからセグメント利益は49,375千円(前年同四半期比29.0%減)となりました。

③ 海外事業

海外事業におきましては、主力のタイにおいて、製造業生産指数が、2020年1～3月期前年比マイナス6.4%、2020年4～6月期前年比マイナス20.0%、2020年7～9月期前年比マイナス8.5%、2020年10～12月期前年比マイナス1.6%とマイナス成長となりました。通貨バツ高が進行して輸出が振るわなかったのに加え、新型コロナウイルス感染拡大の影響による経済活動の低迷が影響しましたが、タイ工業連盟発表によると、自動車生産数において、2020年7月以降マイナス幅が縮小、11月から前年同月比11.9%増とプラスに転じ、2021年3月は、前年同月比10.7%増となっており、タイにおける平山グループの派遣従業員数も、2021年3月時点で前年同月比95%まで回復しました。

このような状況の中、平山グループでは、製造業の様々な効率化を支援すべく、「定着が望まれる労働力」としてミャンマーを主体とした外国人MOUサービスの提案並びに外国人労務管理サービスの提案を進めておりますが、新型コロナウイルス感染拡大及びミャンマー国内情勢の影響が大きく一時的に保留となっており、状況の改善が見られ次第再開予定となっております。

この結果、当第3四半期連結累計期間においては新型コロナウイルス感染拡大の影響による生産の低迷からの回復途上ということもあり売上高は1,051,639千円(前年同四半期比34.5%減)、セグメント損失は58,018千円(前年同四半期はセグメント利益7,260千円)となりました。

注：海外事業につきましては、2020年4～12月期実績を、3ヶ月遅れで当第3四半期連結累計期間に計上しております。

④ その他事業

その他事業につきましては、現場改善コンサル事業及び海外からの研修ツアーは、依然新型コロナウイルス感染拡大の影響を大きく受けるなか、通信大手、海外途上国への人材教育機関等との連携の下、有料のWEBセミナーの積極的な展開を進め、既にインド、パキスタン、バングラデッシュ、シンガポール、中国、ブラジル、UAE、グルジア等向けに実施しグローバルな展開をしております。また、オンラインによる事業展開は海外からの研修ツアーにも拡大し、工場見学、経営者との意見交換等を積極的に進め、高い評価を得ております。さらには、新規事業への取組みとしてIT人材派遣、医療通訳士育成サービス、IMOC(在庫管理・削減)関連事業は、顧客開拓が進み、着実に売上高に寄与し始めております。利益面では、外国人の入国制限により外国人雇用管理サポート事業およびIT人材派遣事業の収益化の目処が立ちつつも時間を要していること、収益率の高い訪問型現場改善コンサル事業の売上高が外国への渡航制限などにより一時的に減少したことから、当第3四半期連結累計期間においては厳しい状況となりました。

この結果、売上高は674,953千円(前年同四半期比0.3%増)、収益化が未だ道半ばであることから、セグメント損失は20,564千円(前年同四半期はセグメント利益68,559千円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産は7,782,398千円となり、前連結会計年度末に比べ409,565千円増加しました。主な要因は、現金及び預金が101,392千円、受取手形及び売掛金が261,872千円、それぞれ増加したことによるものであります。

負債合計は4,703,342千円となり、前連結会計年度末に比べ218,054千円増加しました。主な要因は、未払消費税等が433,031千円増加した一方で、長期借入金が202,254千円減少したことによるものであります。

純資産合計は3,079,056千円となり、前連結会計年度末に比べ191,511千円増加しました。主な要因は、利益剰余金が206,559千円増加したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年6月期の連結業績予想につきましては、2020年8月14日発表の業績予想に対し、進捗率が売上高は71.6%、営業利益は91.9%、経常利益は113.9%、親会社に帰属する四半期純利益は101.8%と概ね計画を上回った進捗となっております。業績動向を踏まえ修正が必要となる場合には、速やかに開示いたします。

※上記の業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき判断したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2020年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,514,341	3,615,734
受取手形及び売掛金	2,356,208	2,618,080
その他	532,123	516,583
貸倒引当金	△41,756	△40,571
流動資産合計	6,360,916	6,709,827
固定資産		
有形固定資産	258,053	269,436
無形固定資産	187,099	146,912
投資その他の資産		
その他	677,336	767,015
貸倒引当金	△110,573	△110,792
投資その他の資産合計	566,763	656,223
固定資産合計	1,011,915	1,072,571
資産合計	7,372,832	7,782,398
負債の部		
流動負債		
1年内返済予定の長期借入金	349,672	349,672
未払金	1,652,052	1,719,345
未払法人税等	261,435	56,608
未払消費税等	376,017	809,048
賞与引当金	108,478	279,266
その他	267,377	192,279
流動負債合計	3,015,032	3,406,220
固定負債		
長期借入金	505,855	303,601
退職給付に係る負債	534,795	592,507
役員退職慰労引当金	315,463	313,363
その他	114,142	87,650
固定負債合計	1,470,255	1,297,121
負債合計	4,485,288	4,703,342
純資産の部		
株主資本		
資本金	438,541	440,578
資本剰余金	358,472	360,509
利益剰余金	2,221,363	2,427,922
自己株式	△156,934	△156,983
株主資本合計	2,861,442	3,072,028
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	9,414	6,059
その他の包括利益累計額合計	9,414	6,059
新株予約権	960	960
非支配株主持分	15,727	8
純資産合計	2,887,544	3,079,056
負債純資産合計	7,372,832	7,782,398

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年7月1日 至 2020年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年7月1日 至 2021年3月31日)
売上高	17,472,749	16,697,463
売上原価	14,534,043	13,769,139
売上総利益	2,938,706	2,928,323
販売費及び一般管理費	2,557,967	2,560,679
営業利益	380,738	367,644
営業外収益		
為替差益	19,228	17,773
助成金収入	2,066	65,429
その他	24,450	15,879
営業外収益合計	45,745	99,083
営業外費用		
支払利息	3,344	7,713
その他	2,203	3,324
営業外費用合計	5,548	11,037
経常利益	420,936	455,689
特別利益		
消費税等簡易課税差額収入	538,842	44,221
債務免除益	-	36,600
関係会社株式売却益	-	2,807
投資有価証券売却益	-	236
特別利益合計	538,842	83,865
特別損失		
減損損失	296,459	-
特別調査費用等	83,234	-
固定資産除却損	729	-
貸倒引当金繰入額	134,801	-
関係会社株式評価損	-	12,955
特別損失合計	515,224	12,955
税金等調整前四半期純利益	444,554	526,599
法人税、住民税及び事業税	413,890	267,512
法人税等調整額	△118,174	△39,509
法人税等合計	295,716	228,002
四半期純利益	148,837	298,597
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	3,016	△6,705
親会社株主に帰属する四半期純利益	145,820	305,302

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年7月1日 至 2020年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年7月1日 至 2021年3月31日)
四半期純利益	148,837	298,597
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△111	-
為替換算調整勘定	△5,912	△3,647
持分法適用会社に対する持分相当額	△30	△30
その他の包括利益合計	△6,053	△3,677
四半期包括利益	142,784	294,919
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	140,255	302,199
非支配株主に係る四半期包括利益	2,529	△7,279

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。